

令和2年度

施設関係者評価表

社会福祉法人 博乃会

認定こども園 日吉台幼稚園

# 令和2年度 施設関係者評価表

社会福祉法人 博乃会 認定こども園 日吉台幼稚園

## 1、本園の教育・保育目標

健康安全など生活に必要な基本的な習慣を身に付け言葉への興味や関心を育て、豊かな表現力を養い、また、人に対する愛情や信頼感、自主性、協調性、道徳性の芽生えを培い、様々な体験を通して、豊かな感性を育てていき“望ましい未来を作り出す力”を培う事を目標としている。

## 2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

今年度より民営化する高槻市立日吉台幼稚園の移管を受け、認定こども園日吉台幼稚園として開園。高槻市立日吉台幼稚園での実践や地域の事情、保護者の願いを汲み取り、幼稚園が行ってきた保育を継承しつつ、新たに、社会福祉法人博乃会の教育・保育方針である「知育・体育・徳育」の3本の柱を基に、教育・保育内容の質の向上を図る事が出来るようにしていく。また、認定こども園として生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を担うとともに、子どもたちの発達に応じた教育・保育を行っていくようにする。

教育・保育の実践としては、年間を通して園児一人一人が様々な経験を通して主体的に取り組んでいく事が出来るよう、各職員が計画性を持って進めていく事の重要性を念頭に置きながら取り組むようにする。日々の教育・保育を行う中で、園児一人一人に丁寧な関わりを持つ事で、子どもたちが自分で考え、行動し、新しい発見や関心を持ちながら自己の力を十分に発揮出来るようにしていく。

職員間では、常に情報を共有し、協力体制を構築していく。また、姉妹園である認定こども園日吉台保育園との研修や交流の機会などを設け、お互いに情報の交換をしながらより良い教育・保育の実施を目指していく。

## 3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取り組み状況
本園の教育・保育課程の編成・実施に関して、職員間の共通理解を図る。	教育・保育要領を共通理解し、それを現実の保育に添わせるように、具体的な場面について月1回の管理職会議・合同職員会議で積極的に話し合いを行っている。
認定こども園の状況をふまえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	待機児童解消に向けての取り組みが認定こども園に求められている背景を踏まえ、小規模保育園の設置や園舎建て替えに向け話し合いを行っている。 子どもたちの健やかな精神・身体の発達を目指し、体育(サッカー)やスイミングを希望者から取り入れていくように話し合いを行っている。
教育・保育の質の向上のために、園内外研修を充実させる。	研修計画を立て、定期的実施している。 ■心肺蘇生法、SIDS研修 ■キャリアアップ研修 ■栄養士研修

保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情に適切な対応を図る。	年2回の個人懇談を実施し、日々保護者から出された意見に対して、必要なものについては園の考え方を示し、改善すべきものは改善するように取り組んでいる。 当番活動や異年齢での関りを大切にしてほしいという保護者の願いを汲み取り、年上に憧れを持ち行動する気持ち、年下にはやさしくする気持ちなどが育つよう日々の保育で実践していくように取り組んでいる。
職員の指導能力向上を図る。	各種研修会に参加し、学んだ事を全職員で共有する事で、専門分野への知識の向上に努めている。 毎日のミーティングで子どもの様子、又は保護者からの意見・要望について、報告・連絡・相談の場を設けて情報を全員が共有する環境を作っている。
園児に接する時の基本姿勢を周知徹底する。	正しい日本語を意識し、丁寧な接し方を再確認の上、実践するように努めている。一人一人の子どもの長所を認め、肯定的な言葉がけをするように努めている。
食育に関する実践を充実させる。	旬の食材を生かし、季節を感じる事が出来るよう献立を工夫している。 家庭に対し、献立のみではなく健康や栄養情報の知識や食事作りのアドバイスとして、希望者には人気メニューのレシピを配布している。
本園の情報を発信する。	本園の教育方針や取り組み状況を園だよりや掲示、その他のプリントで情報発信している。

#### 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防の為、様々な行事を変則的に実施し、その取り組みの様子をビデオで撮影をして記録に残し、子どもたちの日頃の成果を披露する事が出来た。保護者には、DVDにて取り組みの様子を見てもらった。保護者の感想として、日頃の取り組みの様子を垣間見る事が出来て、良かったとの言葉を頂いた。</p> <p>また、日々当番活動を取り入れることで、人前で話すことや、自分の役割を持ち責任を持って行動することにより、自分に自信が持てるようになってきている。保護者からも異年齢での関わりを通して、様々な気持ちが育ち、家でもお手伝いや下の子を意識し優しく関わっている姿が増えたとの言葉も頂いた。</p>
---

#### 5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保護者への情報提供とより正確な要望把握	保護者との個人懇談を通して一層の情報収集を充実していくとともに、行事等についても意見聴取をする。出された意見に対しては十分検討し、必要なものについては本園の考え方を示し説明を加えて理解を得られるよう最大の努力を重ねる。改善すべきところは、的確かつ迅速に改善する。当園の教育方針に則りつつも、子育て中の保護者が期待するところを把握し、園を取り巻く環境や子どもの実態に即した新たな指導計画の編成に取り組んでいく。

自然災害時の危機管理体制の構築	非常時の危機管理について、子どもの引き渡し方法を含めたマニュアルを作成し定期的に職員間で確認を行う。
安全管理の向上	遊具の点検及び園舎・園庭などに危険な箇所がないか日頃から管理に努めている。(毎日、点検記録をつけて管理していく)

#### 6、学校関係者の評価

令和2年度、全職員が教育・保育案を計画し実践している。子どもが主体となって活動し、取り組みの中で、充実感や満足感を得ながら様々な経験が出来る。また、健康管理の上での日々の健康チェックや感染症対策では、現状をふまえ、徹底した環境作り、子どもたちへの手洗い・うがいの丁寧な指導の実践が見られる。

以上のように日々の保育を工夫し、取り組む姿勢が認められる為、特に指摘する事項はない。